

# 『図書館をもっと楽しむ』

～利用者が探る新しい魅力～

図書館は、情報と文化の身近な交流拠点。本を借りるだけでなく、調べものをしたり、創作の場に使ったりと、図書館をもっともっと楽しむためのコツとヒントを、利用者代表の丹治幹男さん、庄司真希さんのお二人が探ります。案内は早坂信子司書です。



## ◆調査相談コーナー(3F)

オンラインで国会図書館や主要な都道府県立図書館の蔵書も検索できます。調査相談コーナーは図書館の全国的な相互協力を支えるネットワークの窓口になっています。

## 図書館と出会う

### 「小学生の頃、子ども文庫によく寄り道しました」——庄司

**庄司** 小学生の頃、学校帰りに児童館の子ども文庫によく行きました。土曜日はお昼も食わずに夢中で本を読んだものです。たくさん本に囲まれているだけで幸せになる感じ——これが私にとって、初めての“図書館体験”だったと思います。そこで読んだ本のなかでも、『はだしのゲン』(中沢啓治作・絵)はすごい衝撃でした。

**丹治** 私は高校1年生のとき、初めて福島県立図書館に行きました。そこで感じた本独特のにおい、「ああ、これが図書館なんだ」と感激したのをよく覚えています。布表紙の改造社版『現代日本文学全集』を数冊借りて読みましたが、「よし、学生時代にこのシリーズを全部読んでやるぞ」と昂揚した気持ちになったことも、懐かしい青春の思い出です。

**早坂** 図書館との出会いは、お二人にとって、とても印

象的だったようですね。今日、宮城県図書館をご覧になった感想はいかがですか。

**丹治** こうしてじっくり見て回ると、図書館は単に本を借りるという受動的な場所ではないと感じました。自ら能動的に接すると、奥深い無限の広がりがあります。

**庄司** みやぎ資料室で、私も記事を書いている『映画が好き』(仙台シネマ倶楽部発行)や、地元の映画情報誌『きーの』(きーの編集室発行)を見つけたときには、ちょっと驚きました。また、『仙台映画大全集』(今野平版印刷発行 1982年)には仙台で発行された映画のプログラムがたくさん収録されていて、とても興味が持てました。

**丹治** 私も参加している文芸同人誌『麦笛(むぎぶえ)』や知人が自費出版した短歌集もありました。自分史などもたくさん並んでいましたね。

## 宮城県図書館探検ツアー

### ●ゲスト



#### 丹治 幹男さん

たんじ・みきお。佐伯一麦氏(作家)を囲む文芸サークル「麦の会」会員で、同人誌『麦笛(むぎぶえ)』に参加。63歳。仙台市在住。



#### 庄司 真希さん

しょうじ・まき。映画の自主上映グループ「仙台ムービー・アクト・プロジェクト」前代表。若手映画監督の作品を紹介する「ユース・シネマ・フォーラム」(仙台市など主催)の企画運営などに参加。26歳。仙台市在住。

### ●案内役



#### 早坂 信子

はやさか・のぶこ。司書。宮城県図書館資料奉仕部で調査相談(レファレンス)を担当。



### ▲一般図書・参考図書・外国語図書室(3F)

**庄司** 「英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ハンゲルなど、外国の本も数多くならんでいて、驚きです」

このコーナーは開架で、本を自由に手に取って選ぶことができます。外国の方の来館も増えています。



### ◀新聞雑誌室(3F)

**丹治** 「マイクロフィルムで古い新聞記事も読めるんですね。小説や自分史を書くときなど、役に立ちそうです」

仙台で発行された最も古い新聞は『宮城新聞』(明治6年4月3日号)です。



### ◀調査相談コーナー(3F)

**丹治** 「CD-ROMで検索するのは初めてです。私の好きな小説家・北条民雄に関する記事や文献を探したいと思います」

**庄司** 「雑誌記事のリストは見ているだけでも、好奇心がわいてきます」

3階にはCD-ROM専用のパソコンが6台あります。CD-ROMは企業情報や雑誌記事索引など約100種類を備えています。

### ▼新聞雑誌室(3F)

**庄司** 「(外国の雑誌を手にして)あっ、サラ・ポーリー! 私の好きなカナダの女優さんです。テレビドラマ『アボンリーへの道』の主演です。彼女はきっと有名になると思います」

**丹治** 「私は、昭和11年の『文學界』のような古い雑誌が読みたいですね」

複製版の『文學界』もあります。

